

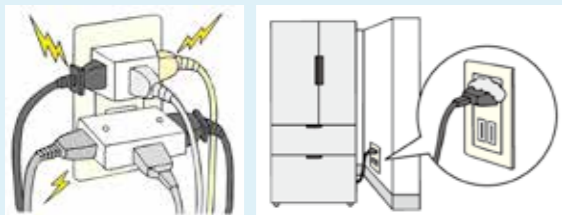
年末大掃除と一緒に火の用心点検を

年末年始は「火災ゼロ」で過ごしましょう

年末年始は、何かと慌ただしく、火の取り扱いに対する警戒心が薄れがちになります。また、この時季は空気が乾燥し、暖房器具や火気を使用する機会も多くなることから、火災が非常に発生しやすくなります。年末年始を笑顔で過ごすために、自宅や事業所の大掃除と一緒に「火の用心点検」を実施しましょう。

電気配線の点検

- ・冷蔵庫や洗濯機など、普段は動かさないコンセントの状況を確認し、プラグの差込状況、ほこりの堆積を確認する。
- ・定格を超えた延長コードや、たこ足配線がないか確認する。また配線が家具の下敷きになっていないか確認する。
- ・電気コードを結束バンドなどで束ねたまま使用していないか確認する。



火気使用器具の点検

- ・ストーブなどにほこりの堆積がないか確認する。
- ・火気使用器具の周囲に燃えやすい物がないか、設置場所の再確認を行う。
- ・屋外に燃えやすい物(不要な雑誌・段ボールなど)がないか確認する。



※住宅用火災警報器も、電池切れや不良などがなければ確認をしてください。

出初式で伝統の「木遣り唄・はしご乗り・纏・腕用ポンプ」を披露します！

平成30年1月7日(日)川内川河川敷で開催される、薩摩川内市消防出初式で、薩摩川内火けし保存会による消防の伝統「木遣り唄・はしご乗り・纏・腕用ポンプ」の演技を披露します。

はしご乗りは、出初式では初披露となりますので、緊張感ある演技をぜひご覧ください。

※薩摩川内火けし保存会
薩摩川内市消防団員、薩摩川内市消防職員の有志で結成され、消防隊を活性化し、魅力ある組織として活動するため、伝統の演技披露などを通して、火災予防の啓発を行っています。

【問合せ先：警防課 ☎ 22-0125】

携帯電話で119通報するときは「GPS機能を有効」に！

消防局では、携帯電話やスマートフォンでの119番通報の割合が多くなっています。

GPS機能が搭載された機種は、GPS機能を有効にすることによって、119番通報した場合、衛星の位置情報を基に通報者の位置をより早く、より正確に特定できます。



GPS機能付きの端末では、10～50m程度の範囲に絞り込むことができます。

← GPS位置情報取得画面(指令台)

すばやく場所を特定し、消防車や救急車を出場させるために、携帯電話やスマートフォンのGPS機能を有効にするよう、協力をお願いします。



【問合せ先：通信指令課 ☎ 22-0119】

給油するときは、寒くても手袋を外して！

セルフスタンドに潜む危険

【編集】= 薩摩川内市消防局予防課 <http://www.satsumasendai-fd.jp>

薩摩川内市消防局

検索

ドライバーが自ら給油を行うセルフサービス方式の給油取扱所(セルフスタンド)が認められてから、20年が経過しようとしています。

現在、本市でも12カ所でセルフスタンドが営業されるなど、私たちの身近な存在となってきましたが、取り扱いを誤ると、ガソリンは非常に「危険」なもの。

ガソリンは、気温がマイナス40度でも気化(蒸発)するため、冬の寒い時季でも気化し、小さな火源(静電気など)で爆発的に燃焼する物質です。

冬場、バイクの運転に手袋は欠かせませんが、手袋をはめたまま「静電気除去シート」に触れても、体内の静電気を確実に除去することはできません。必ず手袋を外した状態で「静電気除去シート」に触れください。

気化したガソリンの蒸気は、空気よりも重い性質を持っているため、くぼみなどにたまりやすく、離れたところで引火する危険性もあります。

また、子どもは親がすることに興味津々。「静電気除去シート」に触れていない子どもが、車から降りて何か物に触れようとすると、静電気による火花を発生する恐れがあります。さらに、給油作業中に子どもが近寄ると、給油口よりも低い位置にいる子どもの周りには可燃性蒸気が多く潜んでいる状態のため、衣服に着火しやすく、最悪の場合、命にまで危険が及ぶ恐れがあります。

利用上の注意事項を守り、安全な給油に心掛けましょう。



セルフスタンドでの注意事項

- 1 エンジン停止
指定された場所に停車し、必ずエンジンを停止してください。
- 2 油種の確認
車に適した油種であることを確認してください。
- 3 静電気除去シートにタッチ
体にたまっている静電気を取り除いてから給油キャップを開けてください。
- 4 正しい操作で給油
給油ノズルをしっかりと奥まで差し込んでください。
- 5 注ぎ足し給油はしない
自動的に給油が止まったら、それ以上の給油はやめましょう。吹きこぼれる恐れがあり、危険です。
- 6 給油キャップを確実に閉める
燃料や蒸気が漏れる恐れがあり、危険です。
- 7 給油作業中は他の人を近づけない
静電気を帯びた人が給油作業をしているところに近づくと、静電気による火花で可燃性蒸気に引火する恐れがあるため危険です。
- 8 セルフスタンド内に掲示してある注意事項は、必ず守る

※携行缶でガソリンを購入する場合、消防法令に適合した容器であっても、利用客が自らガソリンを容器に入れることはできません。従業員が容器にガソリンを入れることは可能ですが、運営方法などにより入れることができない場合もありますので、注意してください。



なぜガソリンスタンドでは、よく水まきをしているの？

静電気によるガソリンの引火を防止するためです。静電気は、異なる2つの物体が接触(摩擦)して発生しますが、電気を通しやすい水が物体の表面に多くあることで、電気を分散し、静電気をたまりにくい状態にしてくれるという働きがあります。同様に、人の体にも静電気はたまりやすいため、出火防止の対策の1つとして行っています。